

新しい年が始まり、早々にうれしいお知らせが2件あります。

ひとつ目は、元石川分教室が職業の授業で取り組んでいる近隣小中学校や麻生養護学校スクールバス、元石川高等学校図書室清掃の活動が、この度令和4年度神奈川県立学校の児童・生徒表彰を受賞することになりました。

授賞理由は、「近隣小中高等学校やスクールバス清掃を通して、地域に貢献をしたこと」が挙げられています。

これまで、長きにわたって取り組んできた分教室の教育活動に対しての表彰と受け止め、大きな財産となったことをうれしく思います。

ふたつ目は、高等部アート美術グループ生徒の作品が「作業療法ジャーナル」の表紙絵に採用されました。

「お花畑」を思わせる、色とりどりの小さな粒が画面全体を埋め尽くした作品です。

お花畑を想起させる作品は、実はチラチラと舞い降る「雪」なのだそうです。

この二つのうれしい出来事の背景には、児童・生徒の活動を「価値づけて」、「発信する」ことが挙げられます。

良い取組をしても、その価値に気づかなかつたり、外部への発信を怠っていれば、このように評価をされるチャンスも逸してしまいます。

今回は、関係する教職員の高いアンテナが、麻生養護学校の教育活動の良い部分をしっかりと受け止めた結果でもあると考えます。

これからも、児童・生徒の「よいところ」をしっかりと受け止め、評価し、伸ばしていく教育活動を進めていきます。

余談ですが、分教室生徒が清掃している中学校に児童生徒表彰の報告をした際、先方の校長先生からこんなうれしい言葉をいただきました。

中学校の支援級に在籍する生徒にとって、分教室の先輩たちの清掃活動がよいモデルになっている。働く姿も立派だし、人に感謝される存在になりたいという意識が、分教室生徒の活動を通して中学生に醸成されているというお話でした。

何か、活動の輪が広がるような、そんな期待を抱かせるエピソードでした。